施設安全点検用紙（木造）

木造

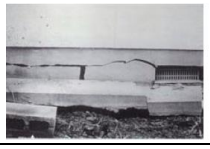
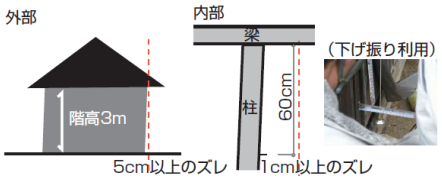
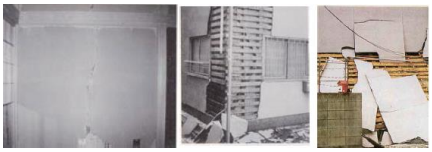
【災害時調査シート】	≪第＿＿回目チェック≫作成日時：＿＿＿年＿＿＿月＿＿＿日 ＿＿＿時＿＿＿分
外部点検	**外部から一見して危険かどうかの点検**

（1）外部から一見して危険と判断される

	番号	調査項目	被害例	は　い：○ いいえ：×	○の場合の対処 応急対応等
構造体の傾き	1	避難建物全体、又は一部が崩壊している。 もしくは、１層、又は２層以上の階層がつぶれている。			危険なため 建物の使用不可
	2	避難建物の基礎が崩壊している。 又は、上部構造と基礎がずれている。			危険なため 建物の使用不可
	3	避難建物全体、又は一部が傾斜しているのがわかる。			危険なため 建物の使用不可
外装材	4	[湿式壁(注１)の場合] モルタルやタイル等にひび割れや剥離等がみられ、落下の危険性がある。			落下しそうな場所を避けて 建物の使用可能
	5	[乾式壁(注２)の場合] 外壁や外装板材等に隙間や顕著なずれや板の破壊がみられ、落下の危険性がある。			落下しそうな場所を避けて 建物の使用可能
瓦	6	瓦がずれている。			落下しそうな場所を避けて 建物の使用可能
窓	7	窓枠がはずれたり窓ガラスが割れており、落下の危険性がある。			落下しそうな場所を避けて 建物の使用可能
隣接建築物・周辺地盤	8	隣接建築物や太い電柱等が避難建物の方向へ傾いて倒れそうである。			危険なため 建物の使用不可
	9	避難建物の方向へ崩れそうな崖地や山林がある。			危険なため 建物の使用不可

(注１)湿式式とは、モルタルやタイル貼り等の壁。　　(注２)乾式壁とは、釘やビス止めなどで施工できる建材を使用した壁

木造

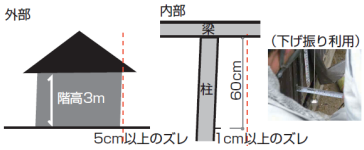
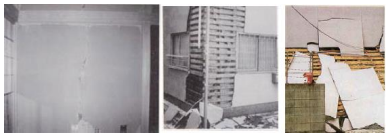
	番号	調査項目	被害例	は　い：○ いいえ：×	○の場合の対処 応急対応等
避難建物の構造躯体	10	屋根、土台が上下方向へ一様でない変形をしている。 (屋根が波打っているように見える)			危険なため 建物の使用不可
	11	基礎の損傷、又は土台との接合部が破壊している。			危険なため 建物の使用不可
	12	1 階の階高に対する横ずれ(傾き)が1/60 以上ある。 (下げ振り等を利用し確認)			危険なため 建物の使用不可
	13	建具にゆがみがある。 又は窓ガラスにひび割れある。			危険なため 建物の使用不可
	14	塗り壁(モルタルやしっくい壁等)に、大きな亀裂やはがれ落がある。			危険なため 建物の使用不可
機器	15	看板や器物（タンクやクーラー用の屋外機器等）や屋外階段が傾斜している。			落下しそうな場所を避けて 建物の使用可能
その他	16	隣接崖地や地盤等が崩れ、避難建物を破壊している。			危険なため 建物の使用不可
	17	隣接建築物が崩れ落ち、避難建物を破壊している。			危険なため 建物の使用不可
	18	隣接建築物から器物（窓枠や外壁看板、屋外機器等）が落下して避難建物を破壊（崩壊）している。			危険なため 建物の使用不可

※「危険なため使用不可」と判断された項目がない場合（全て「いいえ：×」）は、内部点検に移行する。	施設名称：
	記入者：(所属)＿＿＿＿＿＿　氏名：＿＿＿＿＿＿ 連絡先：＿＿＿＿＿＿＿＿

木造

【災害時調査シート】	≪第＿＿回目チェック≫作成日時：＿＿＿年＿＿＿月＿＿＿日 ＿＿＿時＿＿＿分
内部点検	**建物内部の点検**

（2）外部点検で安全と判断された場合の内部点検

	番号	調査項目	被害例	は　い：○ いいえ：×	○の場合の対処 応急対応等
避難建物の構造躯体	1	1 階の階高に対する横ずれ(傾き)が1/60 以上ある。 (下げ振り等を利用し確認)			危険なため 建物の使用不可
	2	建具にゆがみがある。 又は窓ガラスにひび割れある。			危険なため 建物の使用不可
	3	塗り壁(モルタルやしっくい壁等)に、大きな亀裂やはがれ落がある。			危険なため 建物の使用不可
	4	壁の建材(ボードやパネル)が破壊、破損している。			危険なため 建物の使用不可
窓	5	窓枠がはずれたり窓ガラスが割れており、落下の危険性がある。			落下しそうな場所を避けて 建物の使用可能
内装材	6	[湿式壁(注 1)の場合] モルタルやタイル等にひび割れや剥離等がみられ、落下の危険性がある。			落下しそうな場所を避けて 建物の使用可能
	7	[乾式壁(注2)の場合] 内装板材等に隙間や顕著なずれや板の破壊がみられ、落下の危険性がある。			落下しそうな場所を避けて 建物の使用可能
天井	8	天井面に歪みや隙間、破損等がみられる。 又は、壁際と天井の隙間(余裕)や接合部が、平常時と比べて移動・破損している。 ※ ホール吹抜け等、高い天井から先に調査し、各室の天井を調査する。			○がある部屋は危険なため使用不可

※ 「危険なため使用不可」と判断された項目がない場合（全て「いいえ：×」）は、建物の使用可能	施設名称：
	記入者：(所属)＿＿＿＿＿＿＿＿ 氏名：＿＿＿＿＿＿＿＿ 連絡先：＿＿＿＿＿＿＿＿

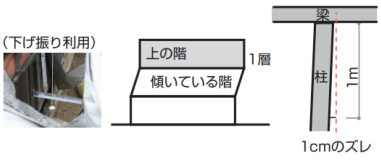
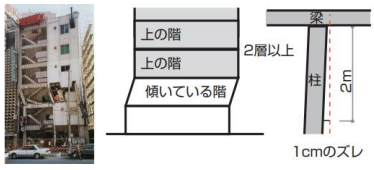
(注 1)湿式式とは、モルタルやタイル貼り等の壁。　(注 2)乾式壁とは、釘やビス止めなどで施工できる建材を使用した壁

施設安全点検用紙（鉄骨造）

鉄骨造（Ｓ造）

【災害時調査シート】	≪第＿＿回目チェック≫作成日時：＿＿＿年＿＿＿月＿＿＿日 ＿＿＿時＿＿＿分
外部点検	**外部から一見して危険かどうかの点検**

（1）外部から一見して危険と判断される

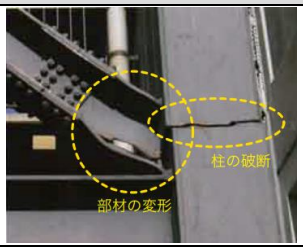
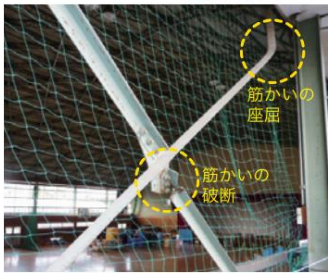
	番号	調査項目	被害例	は　い：○ いいえ：×	○の場合の対処 応急対応等
構造体の傾き	1	避難建物全体、又は一部が崩壊している。 もしくは、１層、又は２層以上の階層がつぶれている。			危険なため 建物の使用不可
	2	避難建物の基礎が崩壊している。 又は、上部構造と基礎がずれている。			危険なため 建物の使用不可
	3	避難建物全体、又は一部が傾斜しているのがわかる。			危険なため 建物の使用不可
隣接建築物・周辺地盤	4	隣接建築物や太い電柱等が避難建物の方向へ傾いて倒れそうである。			危険なため 建物の使用不可
	5	避難建物の方向へ崩れそうな崖地や山林がある。			危険なため 建物の使用不可
避難建物の構造躯体	6	窓枠が変形、又は損傷している。			危険なため 建物の使用不可
	7	傾いている階がありその階が最上階、又は上階が１層のみの場合、その階の柱の傾きが 1/100 以上ある。 （下げ振り等を利用し確認）			危険なため 建物の使用不可
	8	傾いている階があり、その階の上階が２層以上の場合、その階の柱の傾き 1/200 以上ある。 （下げ振り等を利用し確認）			危険なため 建物の使用不可
瓦	9	屋根材がずれている。 又は、破損していて落下の危険性がある。			落下しそうな場所を避けて 建物の使用可能

鉄骨造（Ｓ造）

	番号	調査項目	被害例	は　い：○ いいえ：×	○の場合の対処 応急対応等
窓	10	窓枠・窓ガラスに歪みやひび割れがあり、落下の危険性がある。			落下しそうな場所を避けて建物の使用可能
外装材	11	[湿式壁(注 1)の場合] モルタルやタイル等にひび割れや剥離等がみられ、落下の危険性がある。			落下しそうな場所を避けて建物の使用可能
	12	[乾式壁(注2)の場合] 外壁や外装板材等に隙間や顕著なずれや板の破壊がみられ、落下の危険性がある。			落下しそうな場所を避けて建物の使用可能
機器	13	看板や器物（タンクやクーラー用の屋外機器等）や屋外階段が傾斜している。			落下しそうな場所を避けて建物の使用可能
外階段	14	屋外階段が傾斜、破損している。			屋外階段を避けて建物の使用可能
その他	15	隣接崖地や地盤等が崩れ、避難建物を破壊している。			危険なため建物の使用不可
	16	隣接建築物が崩れ落ち、避難建物を破壊している。			危険なため建物の使用不可
	17	隣接建築物から器物（窓枠や外壁看板、屋外機器等）が落下して避難建物を破壊（崩壊）している。			危険なため建物の使用不可

(注 1)湿式式とは、モルタルやタイル貼り等の壁。　　(注 2)乾式壁とは、釘やビス止めなどで施工できる建材を使用した壁

鉄骨造（S造）

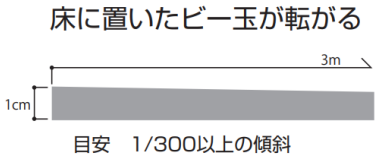
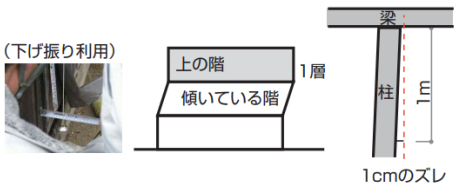
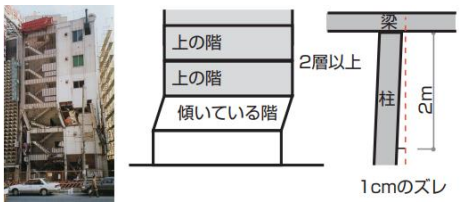
	番号	調査項目	被害例	は　い：○ いいえ：×	○の場合の対処 応急対応等
被害最大の階（　　階）の構造躯体調査委	18	柱や柱を固定する構造上重要な部材が変形、又は破断している。			危険なため 建物の使用不可
	19	柱と柱の間の筋かい※が被害最大階全体の 20%以上切れている。 破断本数　　ⓐ＿＿＿本 全体筋かい本数　　ⓑ＿＿＿本 破断率 ⓐ×ⓑ×100 ＿＿＿% ※ 柱と柱の間に斜めに入れて建築物や足場の構造を補強する部材。	 		危険なため 建物の使用不可
	20	柱と梁の接合部やボルト、部材等が破壊されている。			危険なため 建物の使用不可
	21	柱の根元が著しく破壊※されている。 ※ 柱の固定の力が期待できない程度に著しく破壊されている。			危険なため 建物の使用不可

※ 「危険なため使用不可」と判断された項目がない場合（全て「いいえ：×」）は、内部点検に移行する。	施設名称：
	記入者：(所属)＿＿＿＿＿＿　氏名：＿＿＿＿＿＿ 連絡先：＿＿＿＿＿＿＿＿

鉄骨造（Ｓ造）

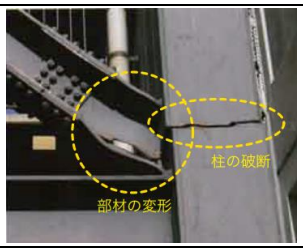
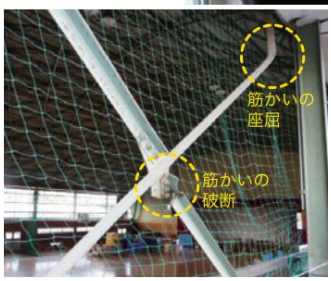
【災害時調査シート】	≪第＿＿回目チェック≫作成日時：＿＿＿年＿＿＿月＿＿＿日 ＿＿＿時＿＿＿分
内部点検	**建物内部の点検**

（2）外部調査で安全と判断された場合の内部点検

	番号	調査項目	被害例	は　い：○ いいえ：×	○の場合の対処 応急対応等
避難建物の構造躯体	1	窓枠が変形、又は損傷している。			危険なため 建物の使用不可
	2	避難建物全体、又は一部が傾いている。 ※ 建物 1 階から順番に各階を数カ所ずつ調査する。			危険なため 建物の使用不可
	3	傾いている階がありその階が最上階、又は上階が 1 層のみの場合、その階の柱の傾きが 1/100 以上ある。 (下げ振り等を利用し確認)			危険なため 建物の使用不可
	4	傾いている階があり、その階の上階が 2 層以上の場合、その階の柱の傾き 1/200 以上ある。 (下げ振り等を利用し確認)			危険なため 建物の使用不可
窓	5	窓枠・窓ガラスに歪みやひび割れがあり、落下の危険性がある。			落下しそうな場所を避けて、建物の使用可能
内装材	6	[湿式壁(注 1)の場合] モルタルやタイル等にひび割れや剥離等がみられ、落下の危険性がある。			落下しそうな場所を避けて、建物の使用可能
	7	[乾式壁(注2)の場合] 内装板材等に隙間や顕著なずれや板の破壊がみられ、落下の危険性がある。			落下しそうな場所を避けて、建物の使用可能

(注 1)湿式式とは、モルタルやタイル貼り等の壁。　　(注 2)乾式壁とは、釘やビス止めなどで施工できる建材を使用した壁

鉄骨造（Ｓ造）

	番号	調査項目	被害例	は　い：○ いいえ：×	○の場合の対処 応急対応等
天井	8	天井面に歪みや隙間、破損等がみられる。 又は、壁際と天井の隙間(余裕)や接合部が、平常時と比べて移動・破損している。 ※ ホール吹抜け等、高い天井から先に調査し、各室の天井を調査する。			○がある部屋は危険なため使用不可
被害最大の階（　　階）の構造躯体調査	9	柱や柱を固定する構造上重要な部材が変形、又は破断している。			危険なため建物の使用不可
	10	柱と柱の間の筋かい※が被害最大階全体の 20%以上切れている。 破断本数　　ⓐ＿＿＿本 全体筋かい本数　　ⓑ＿＿＿本 破断率 ⓐ×ⓑ×100 ＿＿＿% ※ 柱と柱の間に斜めに入れて建築物や足場の構造を補強する部材。	 		危険なため建物の使用不可
	11	柱と梁の接合部やボルト、部材等が破壊されている。			危険なため建物の使用不可
	12	柱の根元が著しく破壊※されている。 ※ 柱の固定の力が期待できない程度に著しく破壊されている。			危険なため建物の使用不可

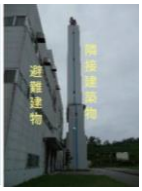
※ 「危険なため使用不可」と判断された項目がない場合（全て「いいえ：×」）は、建物の使用可能	施設名称：
	記入者：(所属)＿＿＿＿＿＿　氏名：＿＿＿＿＿＿ 連絡先：＿＿＿＿＿＿＿＿

施設安全点検用紙（鉄筋及び鉄骨鉄筋コンクリート造）

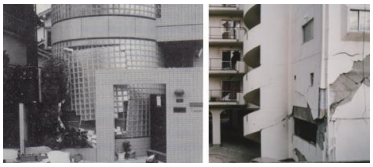
―　低層・ラーメン構造（柱と梁が一体化した構造）　―

鉄筋及び鉄骨鉄筋コンクリート造（ＲＣ・ＳＲＣ造）
〈低層・ラーメン構造〉

【災害時調査シート】	≪第＿＿回目チェック≫作成日時：＿＿＿年＿＿＿月＿＿＿日 ＿＿＿時＿＿＿分
外部点検	**外部から一見して危険かどうかの点検**

（１）外部から一見して危険と判断される					
	番号	調査項目	被害例	は　い：○ いいえ：×	○の場合の対処 応急対応等
構造体の傾き	1	避難建物全体、又は一部が崩壊している。 もしくは、１層、又は２層以上の階層がつぶれている。			危険なため 建物の使用不可
	2	避難建物の基礎が崩壊している。 又は、上部構造と基礎がずれている。			危険なため 建物の使用不可
	3	避難建物全体、又は一部が傾斜しているのがわかる。			危険なため 建物の使用不可
隣接建築物・周辺地盤	4	隣接建築物や太い電柱等が避難建物の方向へ傾いて倒れそうである。			危険なため 建物の使用不可
	5	避難建物の方向へ崩れそうな崖地や山林がある。			危険なため 建物の使用不可
	6	周辺地盤が大きく陥没、又は隆起している。 (約 20 ㎝以上の段差がある)			危険なため 建物の使用不可

鉄筋及び鉄骨鉄筋コンクリート造（ＲＣ・ＳＲＣ造）
〈低層・ラーメン構造〉

	番号	調査項目	被害例	は　い：○ いいえ：×	○の場合の対処 応急対応等
柱・梁の損傷	7	鉄筋が曲がり内部コンクリートも崩れ落ちている構造柱・構造梁が１本以上ある。 又は、窓や出入り口付近でサッシが曲がり、床が沈下している箇所が１箇所以上ある。			危険なため 建物の使用不可
	8	大きなひび割れ(裂け目が２㎜以上又は、深いひび割れ等)が多数あり、表面のコンクリートもはがれ落ちているが、鉄筋は曲がっておらず、内部コンクリートも落ちていない構造柱・構造梁が、全体の 10%以上ある。 ① 損傷個所本数　ⓐ＿＿＿本 全体柱本数　ⓑ＿＿＿本 損傷率 ⓐ×ⓑ×100 ＿＿＿% 損傷率が 10%以上ある	 ２㎜以上の深いひび割れ　鉄筋は曲がっておらず、内部コンクリートも落ちていない構造柱		危険なため 建物の使用不可
窓	9	窓枠・窓ガラスに歪みやひび割れがあり、落下の危険性がある。			落下しそうな場所を避けて 建物の使用可能
外装材	10	[湿式壁(注 1)の場合] モルタルやタイル等にひび割れや剥離等がみられ、落下の危険性がある。			落下しそうな場所を避けて 建物の使用可能
	11	[乾式壁(注2)の場合] 外壁や外装板材等に隙間や顕著なずれや板の破壊がみられ、落下の危険性がある。			落下しそうな場所を避けて 建物の使用可能
機器	12	看板や器物（タンクやクーラー用の屋外機器等）や屋外階段が傾斜している。			落下しそうな場所を避けて 建物の使用可能
外階段	13	屋外階段が傾斜、破損している。			屋外階段を避けて建物の使用可能

(注 1)湿式式とは、モルタルやタイル貼り等の壁。　(注 2)乾式壁とは、釘やビス止めなどで施工できる建材を使用した壁

鉄筋及び鉄骨鉄筋コンクリート造（ＲＣ・ＳＲＣ造）
〈低層・ラーメン構造〉

	番号	調査項目	被害例	は　い：○ いいえ：×	○の場合の対処 応急対応等
その他	14	隣接崖地や地盤等が崩れ、避難建物を破壊している。			危険なため 建物の使用不可
	15	隣接建築物が崩れ落ち、避難建物を破壊している。			危険なため 建物の使用不可
	16	隣接建築物から器物（窓枠や外壁看板、屋外機器等）が落下して避難建物を破壊（崩壊）している。			危険なため 建物の使用不可

※「危険なため使用不可」と判断された項目がない場合（全て「いいえ：×」）は、内部点検に移行する。	施設名称：
	記入者：(所属)＿＿＿＿＿＿＿＿ 氏名：＿＿＿＿＿＿＿＿ 連絡先：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

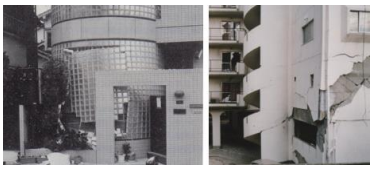
鉄筋及び鉄骨鉄筋コンクリート造（ＲＣ・ＳＲＣ造）
〈低層・ラーメン構造〉

【災害時調査シート】	≪第＿＿回目チェック≫作成日時：＿＿＿年＿＿＿月＿＿＿日 ＿＿＿時＿＿＿分
内部点検	**建物内部の点検**

（２）外部調査で安全と判断された場合の内部点検

	番号	調査項目	被害例	は　い：○ いいえ：×	○の場合の対処 応急対応等
構造躯体	1	避難建物全体、又は一部が傾いている。 ※ 建物 1 階から順番に各階を数カ所ずつ調査する。	床に置いた ゴルフボールが転がる 目安　1/60以上の傾斜		危険なため 建物の使用不可
各階の柱・梁の損傷	2	鉄筋が曲がり内部コンクリートも崩れ落ちている構造柱・構造梁が 1 本以上ある。 又は、窓や出入り口付近でサッシが曲がり、床が沈下している箇所が 1 箇所以上ある。			危険なため 建物の使用不可
	3	大きなひび割れ(裂け目が 2 ㎜以上又は、深いひび割れ等)が多数あり、表面のコンクリートもはがれ落ちているが、鉄筋は曲がっておらず、内部コンクリートも落ちていない構造柱・構造梁が、全体の 10%以上ある。 損傷個所本数　ⓐ＿＿＿本 全体柱本数　ⓑ＿＿＿本 損傷率 ⓐ×ⓑ×100 ＿＿＿% **損傷率が 10%以上ある**	 2 ㎜以上の深いひび割れ　鉄筋は曲がっておらず、内部コンクリートも落ちていない構造柱		危険なため 建物の使用不可
窓	4	窓枠・窓ガラスに歪みやひび割れがあり、落下の危険性がある。			落下しそうな場所を避けて 建物の使用可能

鉄筋及び鉄骨鉄筋コンクリート造（ＲＣ・ＳＲＣ造）
〈低層・ラーメン構造〉

	番号	調査項目	被害例	は　い：○ いいえ：×	○の場合の対処 応急対応等
内装材	5	[湿式壁(注 1)の場合] モルタルやタイル等にひび割れや剥離等がみられ、落下の危険性がある。			落下しそうな場所を避けて建物の使用可能
	6	[乾式壁(注2)の場合] 内装板材等に隙間や顕著なずれや板の破壊がみられ、落下の危険性がある。			落下しそうな場所を避けて建物の使用可能
天井	7	天井面に歪みや隙間、破損等がみられる。 又は、壁際と天井の隙間(余裕)や接合部が、平常時と比べて移動・破損している。 ※ ホール吹抜け等、高い天井から先に調査し、各室の天井を調査する。	 		○がある部屋は危険なため使用不可

※ 「危険なため使用不可」と判断された項目がない場合（全て「いいえ：×」）は、建物の使用可能	施設名称：
	記入者：(所属)＿＿＿＿＿＿ 氏名：＿＿＿＿＿＿ 連絡先：＿＿＿＿＿＿＿＿

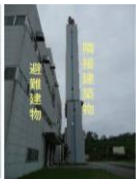
(注 1)湿式式とは、モルタルやタイル貼り等の壁。　　(注 2)乾式壁とは、釘やビス止めなどで施工できる建材を使用した壁

施設安全点検用紙（鉄筋及び鉄骨鉄筋コンクリート造）

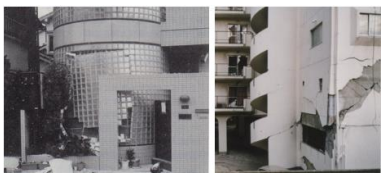
― 低層・壁式構造（壁式構造とは、柱や梁がなく、壁だけの構造のこと。） ―

鉄筋及び鉄骨鉄筋コンクリート造（ＲＣ・ＳＲＣ造）
〈低層・壁式構造〉

【災害時調査シート】	≪第＿＿回目チェック≫作成日時：＿＿＿年＿＿＿月＿＿＿日 ＿＿＿時＿＿＿分
外部点検	**外部から一見して危険かどうかの点検**

（１）外部から一見して危険と判断される					
	番号	調査項目	被害例	は　い：○ いいえ：×	○の場合の対処 応急対応等
構造体の傾き	1	避難建物全体、又は一部が崩壊している。 もしくは、１層、又は２層以上の階層がつぶれている。			危険なため 建物の使用不可
	2	避難建物の基礎が崩壊している。 又は、上部構造と基礎がずれている。			危険なため 建物の使用不可
	3	避難建物全体、又は一部が傾斜しているのがわかる。			危険なため 建物の使用不可
隣接建築物・周辺地盤	4	隣接建築物や太い電柱等が避難建物の方向へ傾いて倒れそうである。			危険なため 建物の使用不可
	5	避難建物の方向へ崩れそうな崖地や山林がある。			危険なため 建物の使用不可
	6	周辺地盤が大きく陥没、又は隆起している。 (約 20 ㎝以上の段差がある)			危険なため 建物の使用不可

鉄筋及び鉄骨鉄筋コンクリート造（ＲＣ・ＳＲＣ造）
〈低層・壁式構造〉

	番号	調査項目	被害例	は　い：○ いいえ：×	○の場合の対処 応急対応等
各階の柱・梁の損傷	7	鉄筋が曲がり内部コンクリートも崩れ落ちている耐力壁(注１)が１面以上ある。 又は、窓や出入り口付近でサッシが曲がり、床が沈下している箇所が１箇所以上ある。			危険なため 建物の使用不可
	8	鉄筋は曲がっていないが、壁の向こう側が透けて見える耐力壁が 10%以上ある。 損傷している耐力壁の延長 ⓐ　　m 全体の耐力壁の延長 ⓑ　　m 損傷率 ⓐ/ⓑ×100　　% 損傷率が 10%以上ある			危険なため 建物の使用不可
窓	9	窓枠・窓ガラスに歪みやひび割れがあり、落下の危険性がある。			落下しそうな場所を避けて 建物の使用可能
外装材	10	[湿式壁(注２)の場合] モルタルやタイル等にひび割れや剥離等がみられ、落下の危険性がある。			落下しそうな場所を避けて 建物の使用可能
	11	[乾式壁(注３)の場合] 外壁や外装板材等に隙間や顕著なずれや板の破壊がみられ、落下の危険性がある。			落下しそうな場所を避けて 建物の使用可能
機器	12	看板や器物（タンクやクーラー用の屋外機器等）や屋外階段が傾斜している。			落下しそうな場所を避けて 建物の使用可能
外階段	13	屋外階段が傾斜、破損している。			屋外階段を避けて建物の使用可能

(注１)耐力壁とは、主体構造の一つとして、建物の自重（じじゅう）を支え、地震力や風圧などの水平力に抵抗させる目的でつくられた壁。
(注２)湿式式とは、モルタルやタイル貼り等の壁。　　(注３)乾式壁とは、釘やビス止めなどで施工できる建材を使用した壁

鉄筋及び鉄骨鉄筋コンクリート造（ＲＣ・ＳＲＣ造）
〈低層・壁式構造〉

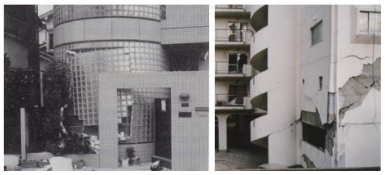
	番号	調査項目	被害例	は　い：○ いいえ：×	○の場合の対処 応急対応等
その他	14	隣接崖地や地盤等が崩れ、避難建物を破壊している。			危険なため 建物の使用不可
	15	隣接建築物が崩れ落ち、避難建物を破壊している。			危険なため 建物の使用不可
	16	隣接建築物から器物（窓枠や外壁看板、屋外機器等）が落下して避難建物を破壊（崩壊）している。			危険なため 建物の使用不可

※「危険なため使用不可」と判断された項目がない場合（全て「いいえ：×」）は、内部点検に移行する。	施設名称：
	記入者：(所属)＿＿＿＿＿＿＿＿　氏名：＿＿＿＿＿＿＿＿ 連絡先：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

鉄筋及び鉄骨鉄筋コンクリート造（ＲＣ・ＳＲＣ造）
〈低層・壁式構造〉

【災害時調査シート】	≪第＿＿回目チェック≫作成日時：＿＿＿年＿＿＿月＿＿＿日 ＿＿＿時＿＿＿分
内部点検	**建物内部の点検**

（２）外部調査で安全と判断された場合の内部点検

	番号	調査項目	被害例	は　い：○ いいえ：×	○の場合の対処 応急対応等
構造躯体	1	避難建物全体、又は一部が傾いている。 ※ 建物 1 階から順番に各階を数カ所ずつ調査する。	床に置いた ゴルフボールが転がる 目安　1/60以上の傾斜		危険なため 建物の使用不可
各階の柱・梁の損傷	2	鉄筋が曲がり内部コンクリートも崩れ落ちている耐力壁(注 1)が 1 面以上ある。 又は、窓や出入り口付近でサッシが曲がり、床が沈下している箇所が 1 箇所以上ある。			危険なため 建物の使用不可
	3	鉄筋は曲がっていないが、壁の向こう側が透けて見える耐力壁が 10%以上ある。 損傷している耐力壁の延長 ⓐ　m 全体の耐力壁の延長 ⓑ　m 損傷率 ⓐ/ⓑ×100　% 損傷率が10%以上ある			危険なため 建物の使用不可
窓	4	窓枠・窓ガラスに歪みやひび割れがあり、落下の危険性がある。			落下しそうな場所を避けて 建物の使用可能
内装材	5	[湿式壁(注 2)の場合] モルタルやタイル等にひび割れや剥離等がみられ、落下の危険性がある。			落下しそうな場所を避けて 建物の使用可能
	6	[乾式壁(注 3)の場合] 内装板材等に隙間や顕著なずれや板の破壊がみられ、落下の危険性がある。			落下しそうな場所を避けて 建物の使用可能

(注１)耐力壁とは、主体構造の一つとして、建物の自重（じじゅう）を支え、地震力や風圧などの水平力に抵抗させる目的でつくられた壁。
(注２)湿式式とは、モルタルやタイル貼り等の壁。　(注３)乾式壁とは、釘やビス止めなどで施工できる建材を使用した壁

鉄筋及び鉄骨鉄筋コンクリート造（ＲＣ・ＳＲＣ造）
〈低層・壁式構造〉

	番号	調査項目	被害例	は　い：○ いいえ：×	○の場合の対処 応急対応等
天井	7	天井面に歪みや隙間、破損等がみられる。 又は、壁際と天井の隙間(余裕)や接合部が、平常時と比べて移動・破損している。 ※ ホール吹抜け等、高い天井から先に調査し、各室の天井を調査する。	 		○がある部屋は危険なため使用不可

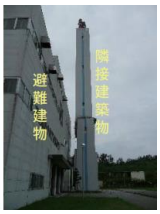
※ 「危険なため使用不可」と判断された項目がない場合（全て「いいえ：×」）は、建物の使用可能	施設名称：
	記入者：(所属)＿＿＿＿＿＿ 氏名：＿＿＿＿＿＿ 連絡先：＿＿＿＿＿＿＿＿

施設安全点検用紙（鉄筋及び鉄骨鉄筋コンクリート造）

―　中高層・ラーメン構造（柱と梁が一体化した構造）　―

鉄筋及び鉄骨鉄筋コンクリート造（ＲＣ・ＳＲＣ造）
〈中高層・ラーメン構造〉

【災害時調査シート】	≪第＿＿回目チェック≫作成日時：＿＿＿年＿＿＿月＿＿＿日 ＿＿＿時＿＿＿分
外部点検	**外部から一見して危険かどうかの点検**

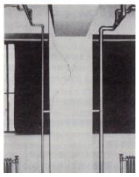
（１）外部から一見して危険と判断される					
	番号	調査項目	被害例	は　い：○ いいえ：×	○の場合の対処 応急対応等
構造体の傾き	1	避難建物全体、又は一部が崩壊している。 もしくは、１層、又は２層以上の階層がつぶれている。			危険なため 建物の使用不可
	2	避難建物の基礎が崩壊している。 又は、上部構造と基礎がずれている。			危険なため 建物の使用不可
	3	避難建物全体、又は一部が傾斜しているのがわかる。			危険なため 建物の使用不可
隣接建築物・周辺地盤	4	隣接建築物や太い電柱等が避難建物の方向へ傾いて倒れそうである。			危険なため 建物の使用不可
	5	避難建物の方向へ崩れそうな崖地や山林がある。			危険なため 建物の使用不可
	6	周辺地盤が大きく陥没、又は隆起している。 (約 20 ㎝以上の段差がある)			危険なため 建物の使用不可

鉄筋及び鉄骨鉄筋コンクリート造（ＲＣ・ＳＲＣ造）
〈中高層・ラーメン構造〉

	番号	調査項目	被害例	は　い：○ いいえ：×	○の場合の対処 応急対応等
窓	7	窓枠・窓ガラスに歪みやひび割れがあり、落下の危険性がある。			落下しそうな場所を避けて建物の使用可能
外装材	8	[湿式壁(注 1)の場合] モルタルやタイル等にひび割れや剥離等がみられ、落下の危険性がある。			落下しそうな場所を避けて建物の使用可能
	9	[乾式壁(注2)の場合] 外壁や外装板材等に隙間や顕著なずれや板の破壊がみられ、落下の危険性がある。			落下しそうな場所を避けて建物の使用可能
機器	10	看板や器物（タンクやクーラー用の屋外機器等）が傾斜している。			落下しそうな場所を避けて建物の使用可能
外階段	11	屋外階段が傾斜、破損している。			屋外階段を避けて建物の使用可能
柱・梁の損傷	12	鉄筋が曲がり内部コンクリートも崩れ落ちている構造柱・構造梁が１本以上ある。 又は、窓や出入り口付近でサッシが曲がり、床が沈下している箇所が１箇所以上ある。			危険なため建物の使用不可
	13	大きなひび割れ(裂け目が２㎜以上又は、深いひび割れ等)が多数あり、表面のコンクリートもはがれ落ちているが、鉄筋は曲がっておらず、内部コンクリートも落ちていない構造柱・構造梁が、全体の 10%以上ある。 損傷個所本数　ⓐ＿＿＿本 全体柱本数　ⓑ＿＿＿本 損傷率 ⓐ×ⓑ×100 ＿＿＿% 損傷率が 10%以上ある	 ２㎜以上の深いひび割れ　鉄筋は曲がっておらず、内部コンクリートも落ちていない構造柱		危険なため建物の使用不可

(注 1)湿式式とは、モルタルやタイル貼り等の壁。　(注 2)乾式壁とは、釘やビス止めなどで施工できる建材を使用した壁

鉄筋及び鉄骨鉄筋コンクリート造（ＲＣ・ＳＲＣ造）
〈中高層・ラーメン構造〉

	番号	調査項目	被害例	は　い：○ いいえ：×	○の場合の対処 応急対応等
その他	14	隣接崖地や地盤等が崩れ、避難建物を破壊している。			危険なため 建物の使用不可
	15	隣接建築物が崩れ落ち、避難建物を破壊している。			危険なため 建物の使用不可
	16	隣接建築物から器物（窓枠や外壁看板、屋外機器等）が落下して避難建物を破壊（崩壊）している。			危険なため 建物の使用不可
損傷箇所	※ 損傷箇所 目に見えるひび割れ、壁、天井のはがれ落ち、 ずれ等ひびが入っている柱 1 本(壁 1 面)＝1 箇所として数える。 損傷箇所が多い場合は、概数(例：約 100 箇所)で記載しても良い。 ＿＿＿＿階（＿＿＿＿）箇所		 		

※ 「危険なため使用不可」と判断された項目がない場合（全て「いいえ：×」）は、内部点検に移行する。	施設名称：
	記入者：(所属)＿＿＿＿＿＿＿＿　氏名：＿＿＿＿＿＿＿＿ 連絡先：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

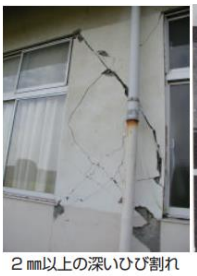
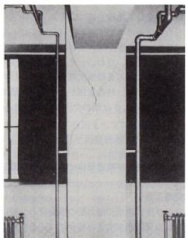
鉄筋及び鉄骨鉄筋コンクリート造（ＲＣ・ＳＲＣ造）
〈中高層・ラーメン構造〉

【災害時調査シート】	≪第＿＿回目チェック≫作成日時：＿＿＿年＿＿＿月＿＿＿日 ＿＿＿時＿＿＿分
内部点検	**建物内部の点検**

（２）外部調査で安全と判断された場合の内部点検					
	番号	調査項目	被害例	は　い：○ いいえ：×	○の場合の対処 応急対応等
構造躯体	1	避難建物全体、又は一部が傾いている。 ※ 建物 １ 階から順番に各階を数カ所ずつ調査する。	床に置いた ゴルフボールが転がる 目安　1/60以上の傾斜		危険なため 建物の使用不可
窓	2	窓枠・窓ガラスに歪みやひび割れがあり、落下の危険性がある。			落下しそうな場所を避けて、建物の使用可能
内装材	3	[湿式壁(注 1)の場合] モルタルやタイル等にひび割れや剥離等がみられ、落下の危険性がある。			落下しそうな場所を避けて、建物の使用可能
	4	[乾式壁(注2)の場合] 内装板材等に隙間や顕著なずれや板の破壊がみられ、落下の危険性がある。			落下しそうな場所を避けて、建物の使用可能
天井	5	天井面に歪みや隙間、破損等がみられる。 又は、壁際と天井の隙間(余裕)や接合部が、平常時と比べて移動・破損している。 ※ ホール吹抜け等、高い天井から先に調査し、各室の天井を調査する。	 		○がある部屋は、危険なため使用不可

(注 1)湿式式とは、モルタルやタイル貼り等の壁。　　(注 2)乾式壁とは、釘やビス止めなどで施工できる建材を使用した壁

鉄筋及び鉄骨鉄筋コンクリート造（ＲＣ・ＳＲＣ造）
〈中高層・ラーメン構造〉

（３）（　　階）の柱・梁のひび割れ及び損傷調査					
	番号	調査項目	被害例	は　い：○ いいえ：×	○の場合の対処 応急対応等
各階の柱・梁の損傷	6	鉄筋が曲がり内部コンクリートも崩れ落ちている構造柱・構造梁が１本以上ある。 又は、窓や出入り口付近でサッシが曲がり、床が沈下している箇所が１箇所以上ある。			危険なため 建物の使用不可
	7	大きなひび割れ(裂け目が２㎜以上又は、深いひび割れ等)が多数あり、表面のコンクリートもはがれ落ちているが、鉄筋は曲がっておらず、内部コンクリートも落ちていない構造柱・構造梁が、全体の10%以上ある。 損傷個所本数　ⓐ＿＿＿本 全体柱本数　ⓑ＿＿＿本 損傷率 ⓐ×ⓑ×100 ＿＿＿% 損傷率が10%以上ある	 ２㎜以上の深いひび割れ 鉄筋は曲がっておらず、内部コンクリートも落ちていない構造柱		危険なため 建物の使用不可
備考欄	※ 損傷箇所 目に見えるひび割れ、壁、天井のはがれ落ち、ずれ等ひびが入っている柱１本(壁１面)＝1箇所として数える。 損傷箇所が多い場合は、概数(例：約100箇所)で記載しても良い。 ＿＿＿階（＿＿＿）箇所		 		

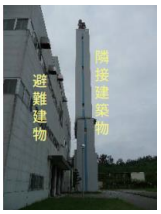
※「危険なため使用不可」と判断された項目がない場合（全て「いいえ：×」）は、建物の使用可能	施設名称：
	記入者：(所属)＿＿＿＿＿＿　氏名：＿＿＿＿＿＿ 連絡先：＿＿＿＿＿＿＿＿

施設安全点検用紙（鉄筋及び鉄骨鉄筋コンクリート造）

― 中高層・壁式構造（壁式構造とは、柱や梁がなく、壁だけの構造のこと。） ―

鉄筋及び鉄骨鉄筋コンクリート造（ＲＣ・ＳＲＣ造）
〈中高層・壁式構造〉

【災害時調査シート】	≪第＿＿回目チェック≫作成日時：＿＿＿年＿＿＿月＿＿＿日 ＿＿＿時＿＿＿分
外部点検	**外部から一見して危険かどうかの点検**

（１）外部から一見して危険と判断される					
	番号	調査項目	被害例	は　い：○ いいえ：×	○の場合の対処 応急対応等
構造体の傾き	1	避難建物全体、又は一部が崩壊している。 もしくは、１層、又は２層以上の階層がつぶれている。			危険なため 建物の使用不可
	2	避難建物の基礎が崩壊している。 又は、上部構造と基礎がずれている。			危険なため 建物の使用不可
	3	避難建物全体、又は一部が傾斜しているのがわかる。			危険なため 建物の使用不可
隣接建築物・周辺地盤	4	隣接建築物や太い電柱等が避難建物の方向へ傾いて倒れそうである。			危険なため 建物の使用不可
	5	避難建物の方向へ崩れそうな崖地や山林がある。			危険なため 建物の使用不可
	6	周辺地盤が大きく陥没、又は隆起している。 (約 20 ㎝以上の段差がある)			危険なため 建物の使用不可

鉄筋及び鉄骨鉄筋コンクリート造（ＲＣ・ＳＲＣ造）
〈中高層・壁式構造〉

	番号	調査項目	被害例	は　い：○ いいえ：×	○の場合の対処 応急対応等
窓	7	窓枠・窓ガラスに歪みやひび割れがあり、落下の危険性がある。			落下しそうな場所を避けて建物の使用可能
内・外装材	8	[湿式壁(注 1)の場合] モルタルやタイル等にひび割れや剥離等がみられ、落下の危険性がある。			落下しそうな場所を避けて建物の使用可能
	9	[乾式壁(注2)の場合] 外壁や内・外装板材等に隙間や顕著なずれや板の破壊がみられ、落下の危険性がある。			落下しそうな場所を避けて建物の使用可能
機器	10	看板や器物（タンクやクーラー用の屋外機器等）や屋外階段が傾斜している。			落下しそうな場所を避けて建物の使用可能
外階段	11	屋外階段が傾斜、破損している。			屋外階段を避けて建物の使用可能
各階の柱・梁の損傷	12	鉄筋が曲がり内部コンクリートも崩れ落ちている耐力壁(注 2)が１面以上ある。 又は、窓や出入り口付近でサッシが曲がり、床が沈下している箇所が１箇所以上ある。			危険なため建物の使用不可
	13	鉄筋は曲がっていないが、壁の向こう側が透けて見える耐力壁が 10%以上ある。 損傷している耐力壁の延長 ⓐ　　m 全体の耐力壁の延長 ⓑ　　m 損傷率 ⓐ/ⓑ×100　　% 損傷率が 10%以上ある			危険なため建物の使用不可

(注 1)湿式式とは、モルタルやタイル貼り等の壁。　　(注 2)乾式壁とは、釘やビス止めなどで施工できる建材を使用した壁

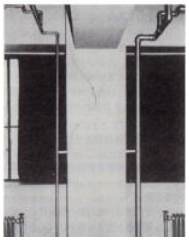
鉄筋及び鉄骨鉄筋コンクリート造（ＲＣ・ＳＲＣ造）
〈中高層・壁式構造〉

	番号	調査項目	被害例	は　い：○ いいえ：×	○の場合の対処 応急対応等
その他	14	隣接崖地や地盤等が崩れ、避難建物を破壊している。			危険なため 建物の使用不可
	15	隣接建築物が崩れ落ち、避難建物を破壊している。			危険なため 建物の使用不可
	16	隣接建築物から器物（窓枠や外壁看板、屋外機器等）が落下して避難建物を破壊（崩壊）している。			危険なため 建物の使用不可

損傷箇所

※ 損傷箇所
目に見えるひび割れ、壁、天井のはがれ落ち、
ずれ等ひびが入っている柱 1 本(壁 1 面)＝1 箇所として数える。
損傷箇所が多い場合は、概数(例：約 100 箇所)で記載しても良い。

_____階（_____）箇所



※「危険なため使用不可」と判断された項目がない場合（全て「いいえ：×」）は、内部点検に移行する。	施設名称：
	記入者：(所属)_____ 氏名：_____ 連絡先：_____

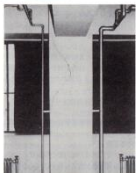
鉄筋及び鉄骨鉄筋コンクリート造（ＲＣ・ＳＲＣ造）
〈中高層・壁式構造〉

【災害時調査シート】	≪第＿＿回目チェック≫作成日時：＿＿＿年＿＿＿月＿＿＿日 ＿＿＿時＿＿＿分
内部点検	**建物内部の点検**

（２）外部調査で安全と判断された場合の内部点検					
	番号	調査項目	被害例	は　い：○ いいえ：×	○の場合の対処 応急対応等
構造躯体	1	避難建物全体、又は一部が傾いている。 ※ 建物 1 階から順番に各階を数カ所ずつ調査する。	床に置いた ゴルフボールが転がる 目安　1/60以上の傾斜		危険なため 建物の使用不可
窓	2	窓枠・窓ガラスに歪みやひび割れがあり、落下の危険性がある。			落下しそうな場所を避けて 建物の使用可能
内装材	3	[湿式壁(注 1)の場合] モルタルやタイル等にひび割れや剥離等がみられ、落下の危険性がある。			落下しそうな場所を避けて 建物の使用可能
	4	[乾式壁(注 2)の場合] 内装板材等に隙間や顕著なずれや板の破壊がみられ、落下の危険性がある。			落下しそうな場所を避けて 建物の使用可能
天井	5	天井面に歪みや隙間、破損等がみられる。 又は、壁際と天井の隙間(余裕)や接合部が、平常時と比べて移動・破損している。 ※ ホール吹抜け等、高い天井から先に調査し、各室の天井を調査する。	 		○がある部屋は危険なため使用不可

(注 1)湿式式とは、モルタルやタイル貼り等の壁。　　(注 2)乾式壁とは、釘やビス止めなどで施工できる建材を使用した壁

鉄筋及び鉄骨鉄筋コンクリート造（ＲＣ・ＳＲＣ造）
〈中高層・壁式構造〉

（３）（　　階）の柱・梁のひび割れ及び損傷点検					
	番号	調査項目	被害例	は　い：○ いいえ：×	○の場合の対処 応急対応等
各階の柱・梁の損傷	６	鉄筋が曲がり内部コンクリートも崩れ落ちている耐力壁(注 1)が 1 面以上ある。 又は、窓や出入り口付近でサッシが曲がり、床が沈下している箇所が 1 箇所以上ある。			危険なため 建物の使用不可
	７	鉄筋は曲がっていないが、壁の向こう側が透けて見える耐力壁が 10%以上ある。 損傷している耐力壁の延長 ⓐ　　m 全体の耐力壁の延長 ⓑ　　m 損傷率 ⓐ/ⓑ×100　　% 損傷率が 10%以上ある			危険なため 建物の使用不可
損傷箇所	※ 損傷箇所 目に見えるひび割れ、壁、天井のはがれ落ち、 ずれ等ひびが入っている柱 1 本(壁 1 面)＝1 箇所として数える。 損傷箇所が多い場合は、概数(例：約 100 箇所)で記載しても良い。 ＿＿＿＿階（＿＿＿＿）箇所		 		

※ 「危険なため使用不可」と判断された項目がない場合（全て「いいえ：×」）は、建物の使用可能	施設名称：
	記入者：(所属)＿＿＿＿＿＿＿＿　氏名：＿＿＿＿＿＿＿＿ 連絡先：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

(注１)耐力壁とは、主体構造の一つとして、建物の自重（じじゅう）を支え、地震力や風圧などの水平力に抵抗させる目的でつくられた壁。